

INFECTIOUS DISEASES WEEKLY REPORT

TOKYO IDWR

東京都感染症情報センター

# 東京都感染症週報

2012年第30週  
(7月23日～7月29日)

- \* 2012年8月1日現在の情報により作成しています。  
最新のデータは「Web版感染症発生動向」をご覧ください。  
<http://survey.tokyo-eiken.go.jp/>
- \* 今週は感染症豆知識「ポリオ不活化ワクチン導入」も記載  
しています。

平成24(2012)年8月2日発行

編集・発行

東京都健康安全研究センター  
健康危機管理情報課

電話：03-3363-3213(直通)  
FAX：03-5332-7365  
e-mail：idsc@tokyo-eiken.go.jp

# 全数把握対象疾患 報告数 2012年30週

分類	対象疾患	東京都(保健所受理週)				年累計	全国(診断週)		
		27週	28週	29週	30週		30週	年累計	
一類	エボラ出血熱								
	クリミア・コンゴ出血熱								
	痘そう								
	南米出血熱								
	ペスト								
	マールブルグ病								
	ラッサ熱								
二類	急性灰白髄炎								
	結核	97	113	93	75	2,628	384	16,671	
	ジフテリア								
	重症急性呼吸器症候群 *1								
	鳥インフルエンザ(H5N1)								
三類	コレラ							3	
	細菌性赤痢	1		1		36	1	112	
	腸管出血性大腸菌感染症	9	10	7	7	91	115	1,367	
	腸チフス					5		14	
	パラチフス					5		10	
四類	E型肝炎			1	1	11	2	81	
	ウエストナイル熱								
	A型肝炎	1		1	1	25	1	115	
	エキノкокクス症							6	
	黄熱								
	オウム病							5	
	オムスク出血熱								
	回帰熱								
	キャサヌル森林病								
	Q熱								
	狂犬病								
	コクシジオイデス症							1	
	サル痘								
	腎症候性出血熱								
	西部ウマ脳炎								
	ダニ媒介脳炎								
	炭疽								
	チクングニア熱							2	3
	つつが虫病	1				3	1	192	
	デング熱	3				20	4	79	
	東部ウマ脳炎								
	鳥インフルエンザ(H5N1を除く)								
	ニバウイルス感染症								
	日本紅斑熱						1	48	
	日本脳炎								
	ハンタウイルス肺症候群								
	Bウイルス病								
	鼻疽								
	ブルセラ症								
	ベネズエラウマ脳炎								
	ヘンドラウイルス感染症								
	発しんチフス								
	ボツリヌス症							3	
	マラリア	1				11	2	39	
	野兔病								
	ライム病							5	
リッサウイルス感染症									
リフトバレー熱									
類鼻疽									
レジオネラ症	5	1		2	35	18	485		
レプトスピラ症					3	1	8		
ロッキー山紅斑熱									

分類	対象疾患	東京都(保健所受理週)					全国(診断週)	
		27週	28週	29週	30週	年累計	30週	年累計
五類 (全数届出)	アメーバ赤痢	5	2	3	3	97	9	487
	ウイルス性肝炎(A型・E型を除く)	1	1			28	1	126
	急性脳炎 *2		1	1	2	20	1	237
	クリプトスポリジウム症					2		6
	クロイツフェルト・ヤコブ病	1			1	8	2	106
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症			1	1	12	4	153
	後天性免疫不全症候群	13	15	7	7	264	18	782
	ジアルジア症		1			8	1	31
	髄膜炎菌性髄膜炎							7
	先天性風しん症候群							
	梅毒	2	1	4	5	156	12	474
	破傷風					3	3	60
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症							
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症					6	4	52
	風しん	38	32	22	37	204	108	917
麻しん	5	6	3	7	47	10	201	
2012/8/1集計								

\*1 病原体がコロナウイルス属SARSコロナウイルスであるものに限る。

\*2 ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介性脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。

### (全数把握対象疾患のコメント)

〈二類感染症〉

**結核 75件** 肺結核 36件、その他の結核 10件、肺結核及びその他の結核 2件、無症状病原体保有者 25件、疑似症 2件、年齢は10歳未満 8件(うち5歳未満 5件)、10代 2件、20代 9件、30代 9件、40代 5件、50代 8件、60代 9件、70代 13件、80代 9件、90歳以上 3件、推定感染地は国内 74件、不明 1件であった。

〈三類感染症〉

**腸管出血性大腸菌感染症 7件** 患者 6件、無症状病原体保有者 1件、血清型・毒素型はO157 VT1・VT2 3件、O157 VT2 2件、O145 VT2 1件、O26 VT1 1件、年齢は10歳未満 3件(うち5歳未満 1件)、20代 2件、40代 1件、70代 1件、推定感染地は国内 7件、推定感染経路は経口感染 3件、接触感染 1件、その他 3件であった。O157 VT1・VT2のうち1件で焼肉の喫食を認め、O157 VT2のうち1件でレバ刺及び焼肉の喫食を認めた。

〈四類感染症〉

**E型肝炎 1件** 患者、年齢は40代、推定感染地は国内、推定感染経路は経口感染であった。  
**A型肝炎 1件** 患者、年齢は20代、推定感染地はインドまたはケニア、推定感染経路は経口感染であった。  
**レジオネラ症 2件** 肺炎型 2件、年齢は60代 1件、90歳以上 1件、推定感染地は国内 2件、推定感染経路は水系感染 2件(うち温泉 1件)であった。

〈五類感染症〉

**アメーバ赤痢 3件** 腸管 1件、腸管及び腸管外 2件、年齢は40代 1件、50代 1件、70代 1件、推定感染地は国内 2件、インドネシア 1件、推定感染経路は性的接触(同性間) 1件、経口感染 1件、その他(不明) 1件であった。

**急性脳炎 2件** 病原体はヒトヘルペスウイルス 6型 1件、単純ヘルペスウイルス 1件、年齢は5歳未満 1件、70代 1件、推定感染地は国内 2件、推定感染経路は接触感染 1件、その他(不明) 1件であった。

**クロイツフェルト・ヤコブ病 1件** 古典型CJD、年齢は50代であった。

**劇症型溶血性レンサ球菌感染症 1件** B群、年齢は80代、推定感染地は国内、推定感染経路はその他(不明)であった。

**後天性免疫不全症候群 7件** AIDS 2件、無症候キャリア 5件、AIDS患者の年齢は30代 1件、40代 1件、無症候キャリアの年齢は30代 2件、40代 2件、50代 1件、推定感染地は国内 5件、不明 2件、推定感染経路は性的接触 5件(同性間 3件、異性間 2件)、不明 2件であった。

**梅毒 5件** 早期顕症梅毒Ⅱ期 2件、先天梅毒 1件、無症候梅毒 2件、年齢は5歳未満 1件、20代 1件、30代 2件、40代 1件、推定感染地は国内 4件、国外不明 1件、推定感染経路は性的接触 4件(同性間 1件、異性間 2件、性別不明 1件)、母子感染 1件であった。

**風しん 37件** 検査診断例 29件、臨床診断例 8件、年齢は10代 3件、20代 11件、30代 15件、40代 6件、50代 1件、60代 1件、推定感染地は国内 37件、推定感染経路は飛沫・飛沫核感染 16件、接触感染 2件、飛沫・飛沫核感染または接触感染 5件、その他 14件、風しん含有ワクチン接種歴は1回接種 2件、2回接種 1件、接種なし 7件、不明 27件であった。

**麻しん 7件** 検査診断例 3件、修飾麻しん 2件、臨床診断例 2件、年齢は5歳未満 2件、20代 1件、30代 3件、40代 1件、推定感染地は国内 6件、インド 1件、推定感染経路は飛沫・飛沫核感染 2件、その他 5件、麻しん含有ワクチン接種歴は接種なし 3件、不明 4件であった。

※ 第29週該当分として、〔五類〕風しん 2件の追加報告があった。

## 定点把握対象疾患 報告数 2012年30週

定点種別	対象疾患	2012年					報告 医療 機関数	定点 医療 機関数
		27週	28週	29週	30週	定点当たり		
小児科	RSウイルス感染症	33	28	49	61	0.23	261	264
	咽頭結膜熱	189	172	160	165	0.63		
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	633	572	369	386	1.48		
	感染性胃腸炎	1,751	1,434	1,031	1,051	4.03		
	水痘	219	257	147	175	0.67		
	手足口病	231	358	347	326	1.25		
	伝染性紅斑	66	60	36	33	0.13		
	突発性発しん	230	204	192	205	0.79		
	百日咳	10	8	6	21	0.08		
	ヘルパンギーナ	1,172	2,090	2,175	1,983	7.60		
	流行性耳下腺炎	105	79	82	76	0.29		
	川崎病(注1)	6	3	2	3	0.01		
	不明発しん症(注1)	37	49	30	51	0.20		
インフルエンザ	インフルエンザ(注2)	4	21	9	6	0.01	413	419
眼科	急性出血性結膜炎		1	1			37	39
	流行性角結膜炎	30	14	27	23	0.62		
基幹	細菌性髄膜炎(注3)	1		2	2	0.08	25	25
	無菌性髄膜炎	1	2	4	4	0.16		
	マイコプラズマ肺炎	18	14	16	22	0.88		
	クラミジア肺炎(オウム病を除く)							
	インフルエンザ入院(注4)		1					
2012/8/1集計								

(注1) 不明発しん症、川崎病 は東京都が独自に指定する疾患である。

(注2) 鳥インフルエンザを除く。

(注3) 髄膜炎菌性髄膜炎を除く。

(注4) 2011年36週より開始

### (今週の注目される定点把握対象疾患)

- ・ヘルパンギーナの定点当り報告数は減少したが、28週から引き続き流行警報基準を超えている。

### (小児科・内科定点医療機関からのコメント)

#### 台東区

- ・手足口病が同じ保育施設で4名発生。

#### 世田谷区

- ・アデノウイルス迅速キットにて陽性 4名。
- ・EBウイルス感染症 1名(10歳児)。

#### 板橋区

- ・感染性胃腸炎3名中、病原性大腸菌O15、カンピロバクター 各1名。

#### 南多摩

- ・今週もヘルパンギーナの発症が多く続いています。高熱の為、外気も高いので不機嫌な子供が多く見られました。
- ・手足口病は減少し、ヘルパンギーナは増加。

#### 多摩小平

- ・マイコプラズマ肺炎 8名、病原性大腸菌 22名、アデノウイルス、ノロウイルス 各1名。

## 定点把握対象疾患 報告数【年齢階級別】 2012年30週

定点種別	小児科									
	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ
～6か月	15	2		15	2			5		10
～1歳	19	1	2	114	6	18		78	1	158
1歳	17	24	12	146	24	66	3	103	2	522
2歳	9	10	30	119	30	58	6	17	3	394
3歳	1	23	31	95	34	64	4	1	4	259
4歳		22	50	90	33	37	3		2	223
5歳		41	62	73	19	26	3	1	2	177
6歳		14	57	69	16	23	5			85
7歳		5	44	57	1	16	3			53
8歳		5	27	56	4	5			1	34
9歳		3	12	25	2	5			1	28
10～14歳		6	38	77	3	3	3		1	23
15～19歳		1	2	13			2		1	
20～29歳		8	19	102	1	5	1		3	17
30～39歳										
40～49歳										
50～59歳										
60～69歳										
70～79歳										
80歳以上										
合計	61	165	386	1,051	175	326	33	205	21	1,983
先週比	12	5	17	20	28	-21	-3	13	15	-192

注：小児科定点把握対象疾患の「20～29歳」は「20歳以上」と読み替える。  
眼科定点把握対象疾患のうち、「70～79歳」は「70歳以上」と読み替える。

定点種別	小児科			インフルエンザ	眼科	
	流行性耳下腺炎	川崎病	不明発しん症	インフルエンザ	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎
～6か月		1	2			
～1歳		1	9	1		1
1歳	7	1	10			
2歳	6		9	1		
3歳	6		10			1
4歳	20		4	1		
5歳	13					
6歳	8					1
7歳	6		3	1		
8歳	4			1		
9歳	1		1			1
10～14歳	4					1
15～19歳						2
20～29歳	1		3			2
30～39歳						5
40～49歳				1		4
50～59歳						2
60～69歳						3
70～79歳						
80歳以上						
合計	76	3	51	6		23
先週比	-6	1	21	-3	-1	-4

注：小児科定点把握対象疾患の「20～29歳」は「20歳以上」と読み替える。  
眼科定点把握対象疾患のうち、「70～79歳」は「70歳以上」と読み替える。

### 全数把握対象疾患 (風しん、麻しん)報告数

【年齢階級別】 2012年30週

	風しん	麻しん
0歳		1
1歳		
2歳		
3歳		1
4歳		
5歳		
6歳		
7歳		
8歳		
9歳		
10～14歳	2	
15～19歳	1	
20～29歳	11	1
30～39歳	15	3
40～49歳	6	1
50～59歳	1	
60～69歳	1	
70～79歳		
80歳以上		
合計	37	7

## 定点把握対象疾患 報告数【保健所別】 2012年30週

定点種別	小児科									
	RSウイルス 感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性 レンサ球菌 咽頭炎	感染性 胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性 紅斑	突発性 発しん	百日咳	ヘルパン ギーナ
千代田				8			1	2		18
中央区		3	3	3		1		7		12
みなと	4	6	3	12	3	1		3		21
新宿区	5	2	26	14	1	5	1	2		40
文京		2	2	3	5	5		1		15
台東	1		2	19	2	15		1		15
墨田区	2	1	10	2	2	8		3		29
江東区	5	27	12	81	3	18	3	10		79
品川区		4	3	46	1	7	1	6		23
目黒区		2	7	15	3		5			8
大田区	11	37	35	89	11	13		7	2	118
世田谷	2	9	39	43	13	64	6	10	1	112
渋谷区			2	11		3		5		11
中野区			5	24	1	7		8		41
杉並		3	8	40	5	5		4		42
池袋			1	5	1	2				4
北区	1	3	3	24	8	9	2	5		53
荒川区	5	7	5	18	11	16		4	1	58
板橋区	1	2		23	3	2		8		23
練馬区		3	23	38	1	7		5	8	119
足立	3	5	21	75	10	8	2	19		115
葛飾区	1	1	9	38	2	12		9		52
江戸川	3	18	23	64	6	20	1	5		108
八王子市	4	7	39	107	13	8		11		177
町田市	1	1	17	55	11	24	4	11	1	120
西多摩	1	3	6	24	10	2		7		50
南多摩	2	3	6	32	6	16	1	9		146
多摩立川	2	1	16	29	3	9	2	8		55
多摩府中	4	4	28	45	10	22	2	16	8	136
多摩小平	3	11	27	64	25	17	2	18		183
島しょ			5		5			1		
東京都合計	61	165	386	1,051	175	326	33	205	21	1,983

全数把握対象疾患  
(風しん、麻しん)報告数

【保健所別】 2012年30週

定点種別	小児科			インフルエンザ	眼科	
	流行性 耳下腺炎	川崎病	不明 発しん症	インフル エンザ	急性出血 性結膜炎	流行性 角結膜炎
千代田			1			
中央区	1					1
みなと	1					
新宿区	1		2	1		
文京						2
台東	2					
墨田区						1
江東区	2		8			3
品川区	3		1			
目黒区						
大田区	26	1	7			3
世田谷	5	1	4	2		1
渋谷区						1
中野区			1			1
杉並	2					
池袋				2		
北区			1			
荒川区						1
板橋区	2		3			
練馬区	1					
足立	5					5
葛飾区	1		1			
江戸川	1		1			1
八王子市	7		2			1
町田市	1		11	1		
西多摩	1					
南多摩	1		1			
多摩立川	9		1			
多摩府中	3	1	6			1
多摩小平	1					1
島しょ						

東京都合計	76	3	51	6		23
-------	----	---	----	---	--	----

	風しん	麻しん
千代田	2	
中央区		
みなと	1	
新宿区	1	2
文京		
台東	1	
墨田区	1	
江東区	1	
品川区	4	
目黒区	1	
大田区		1
世田谷	6	
渋谷区	1	
中野区	1	
杉並	2	
池袋	2	
北区	2	
荒川区		
板橋区	1	1
練馬区	2	
足立	2	
葛飾区	2	
江戸川		1
八王子市		
町田市		
西多摩		1
南多摩		
多摩立川		
多摩府中	4	1
多摩小平		
島しょ		

東京都合計	37	7
-------	----	---

## 定点把握対象疾患 報告数【保健所別・定点当たり】 2012年30週

定点種別	小児科									
	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ
千代田				2.67			0.33	0.67		6.00
中央区		1.00	1.00	1.00		0.33		2.33		4.00
みなと	0.67	1.00	0.50	2.00	0.50	0.17		0.50		3.50
新宿区	0.63	0.25	3.25	1.75	0.13	0.63	0.13	0.25		5.00
文京		0.50	0.50	0.75	1.25	1.25		0.25		3.75
台東	0.25		0.50	4.75	0.50	3.75		0.25		3.75
墨田区	0.40	0.20	2.00	0.40	0.40	1.60		0.60		5.80
江東区	0.56	3.00	1.33	9.00	0.33	2.00	0.33	1.11		8.78
品川区		0.57	0.43	6.57	0.14	1.00	0.14	0.86		3.29
目黒区		0.40	1.40	3.00	0.60		1.00			1.60
大田区	0.85	2.85	2.69	6.85	0.85	1.00		0.54	0.15	9.08
世田谷	0.13	0.56	2.44	2.69	0.81	4.00	0.38	0.63	0.06	7.00
渋谷区			0.50	2.75		0.75		1.25		2.75
中野区			0.71	3.43	0.14	1.00		1.14		5.86
杉並		0.30	0.80	4.00	0.50	0.50		0.40		4.20
池袋			0.25	1.25	0.25	0.50				1.00
北区	0.14	0.43	0.43	3.43	1.14	1.29	0.29	0.71		7.57
荒川区	1.25	1.75	1.25	4.50	2.75	4.00		1.00	0.25	14.50
板橋区	0.10	0.20		2.30	0.30	0.20		0.80		2.30
練馬区		0.23	1.77	2.92	0.08	0.54		0.38	0.62	9.15
足立	0.23	0.38	1.62	5.77	0.77	0.62	0.15	1.46		8.85
葛飾区	0.13	0.13	1.13	4.75	0.25	1.50		1.13		6.50
江戸川	0.25	1.50	1.92	5.33	0.50	1.67	0.08	0.42		9.00
八王子市	0.36	0.64	3.55	9.73	1.18	0.73		1.00		16.09
町田市	0.13	0.13	2.13	6.88	1.38	3.00	0.50	1.38	0.13	15.00
西多摩	0.13	0.38	0.75	3.00	1.25	0.25		0.88		6.25
南多摩	0.22	0.33	0.67	3.56	0.67	1.78	0.11	1.00		16.22
多摩立川	0.14	0.07	1.14	2.07	0.21	0.64	0.14	0.57		3.93
多摩府中	0.20	0.20	1.40	2.25	0.50	1.10	0.10	0.80	0.40	6.80
多摩小平	0.20	0.73	1.80	4.27	1.67	1.13	0.13	1.20		12.20
島しょ			5.00		5.00			1.00		

東京都	0.23	0.63	1.48	4.03	0.67	1.25	0.13	0.79	0.08	7.60
-----	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------

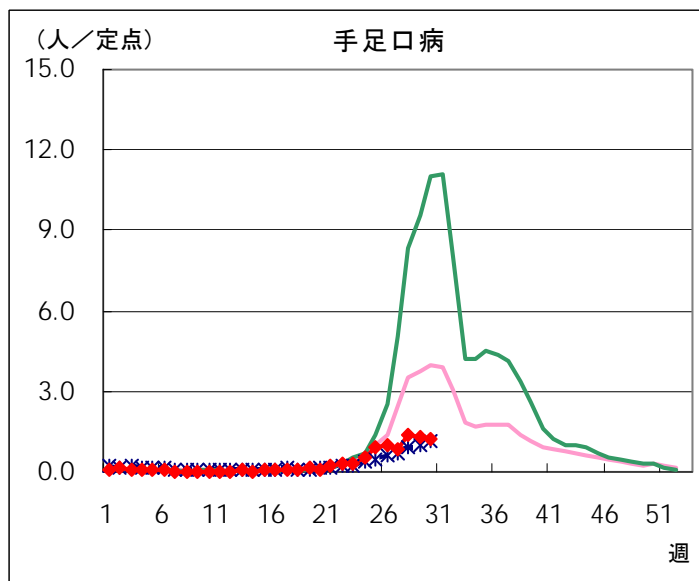
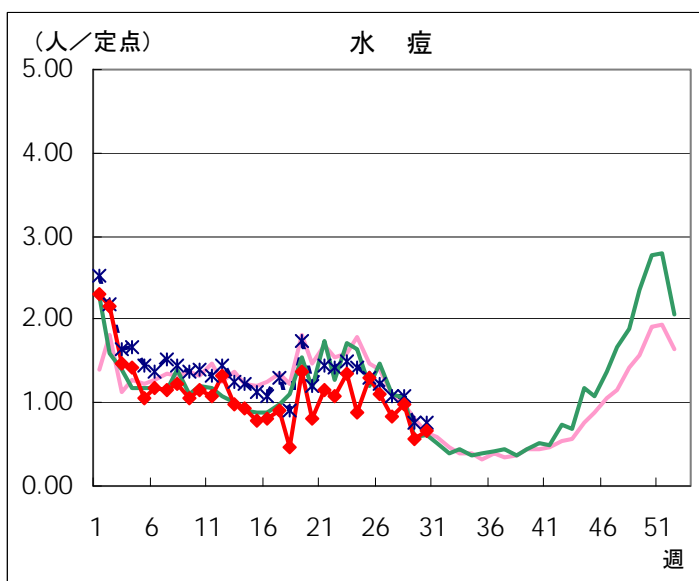
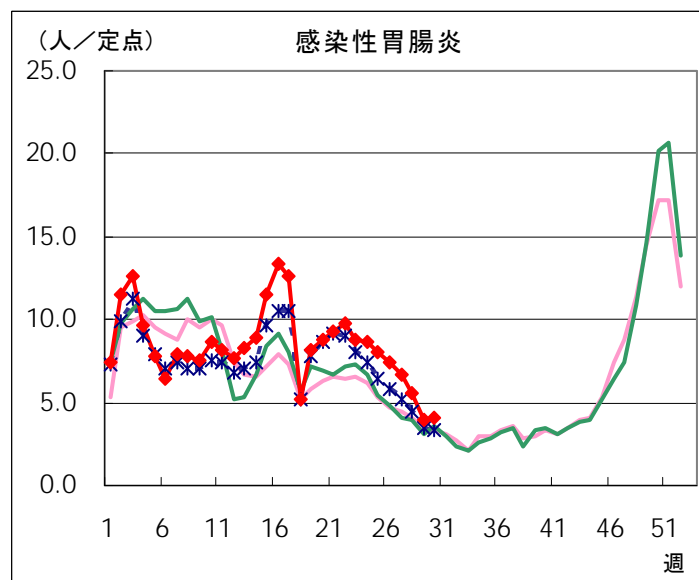
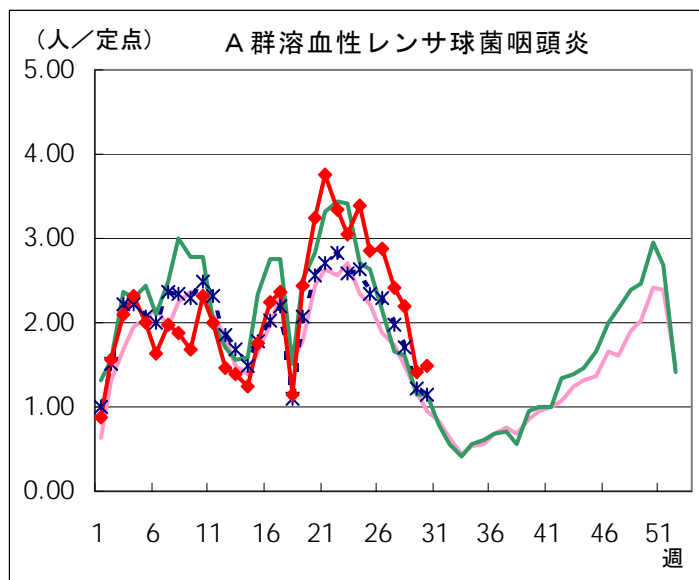
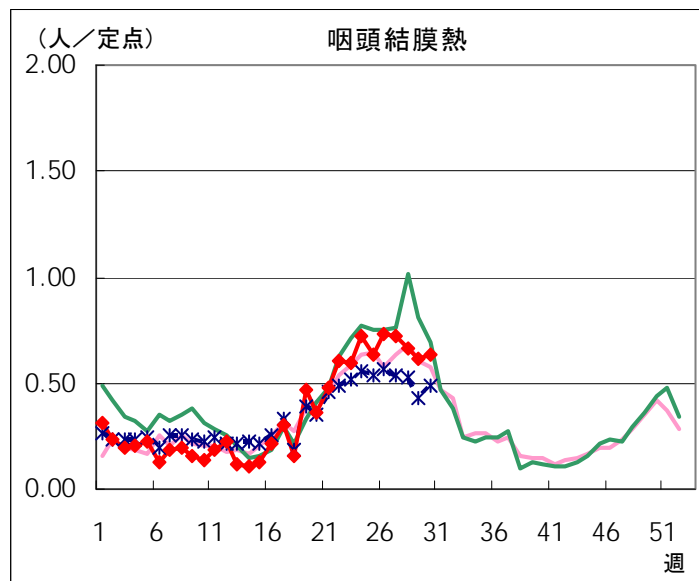
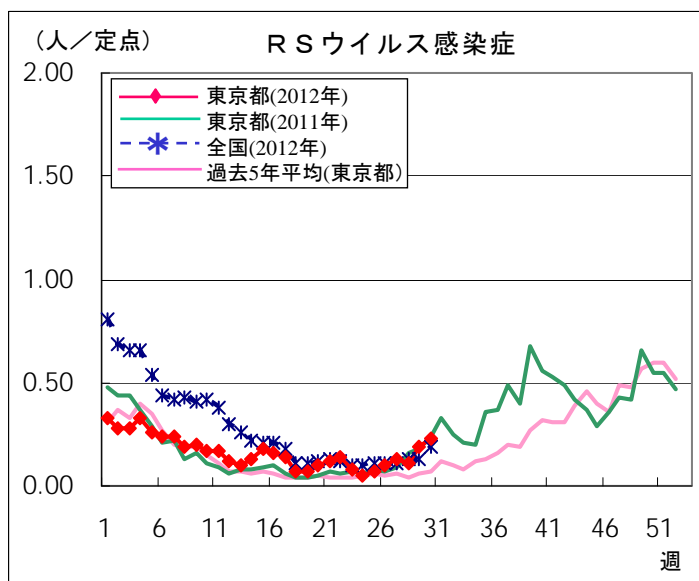


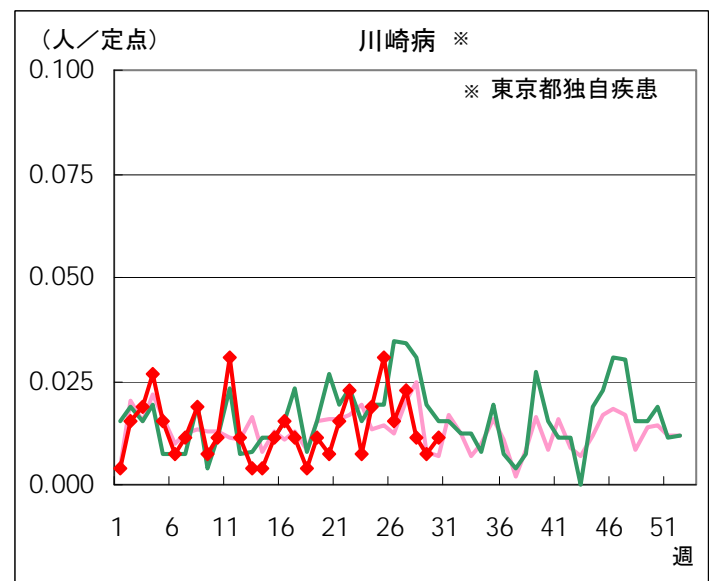
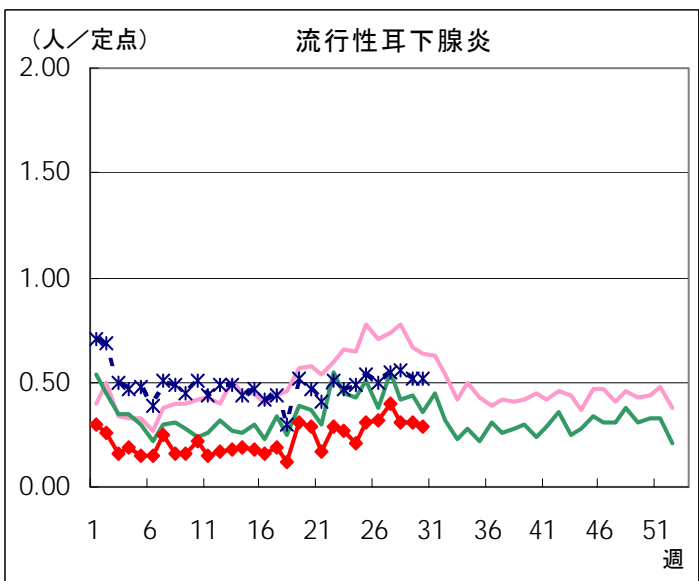
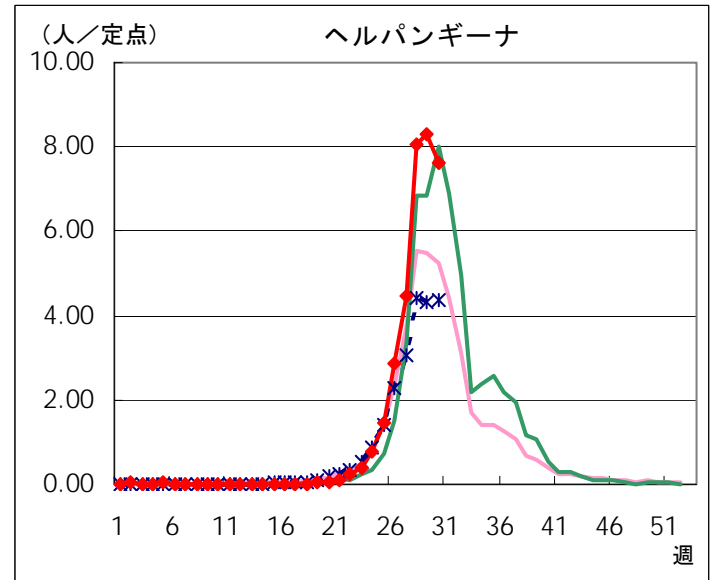
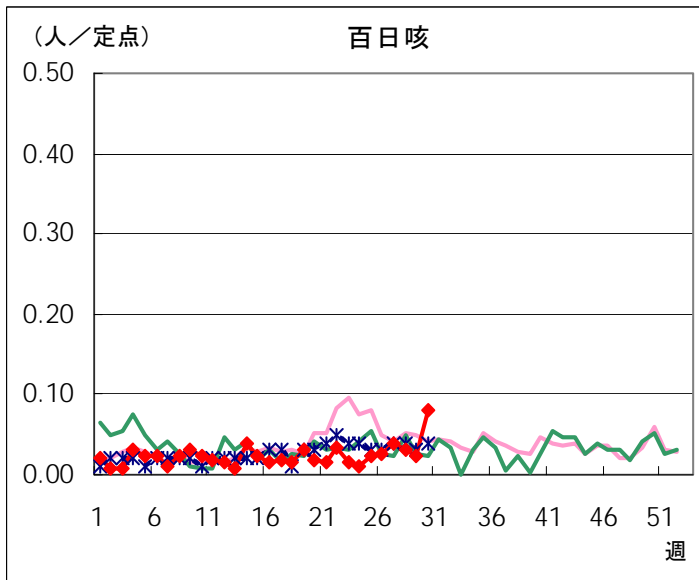
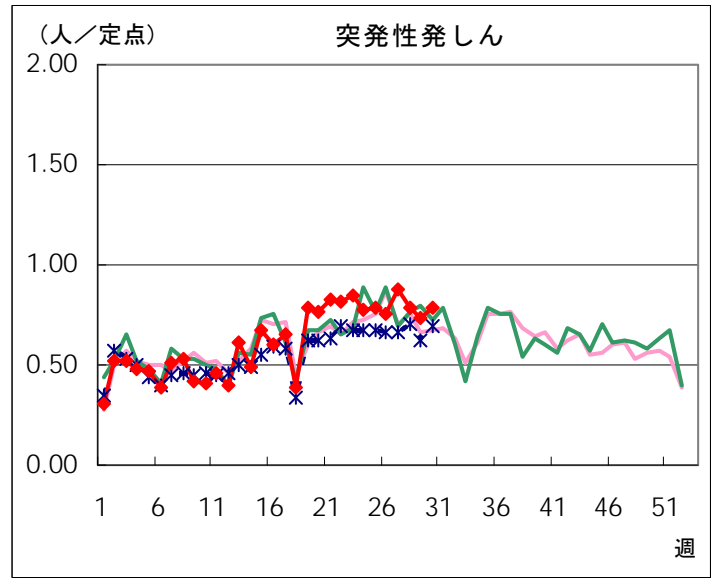
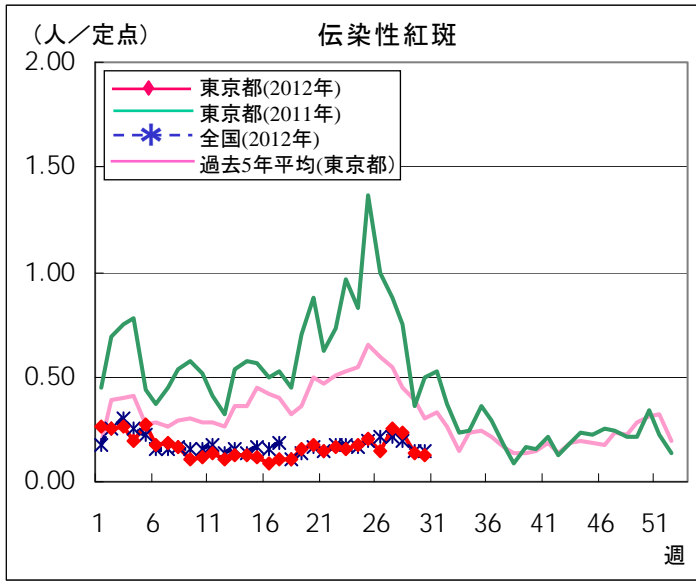
定点種別	小児科			インフルエンザ	眼科	
	流行性 耳下腺炎	川崎病	不明 発しん症	インフル エンザ	急性出血 性結膜炎	流行性 角結膜炎
千代田			0.33			
中央区	0.33					1.00
みなと	0.17					
新宿区	0.13		0.25	0.08		
文京						2.00
台東	0.50					
墨田区						1.00
江東区	0.22		0.89			3.00
品川区	0.43		0.14			
目黒区						
大田区	2.00	0.08	0.54			1.50
世田谷	0.31	0.06	0.25	0.08		0.50
渋谷区						1.00
中野区			0.14			1.00
杉並	0.20					
池袋				0.29		
北区			0.14			
荒川区						1.00
板橋区	0.20		0.30			
練馬区	0.08					
足立	0.38					2.50
葛飾区	0.13		0.13			
江戸川	0.08		0.08			0.50
八王子市	0.64		0.18			0.50
町田市	0.13		1.38	0.08		
西多摩	0.13					
南多摩	0.11		0.11			
多摩立川	0.64		0.07			
多摩府中	0.15	0.05	0.30			0.50
多摩小平	0.07					0.50
島しょ						

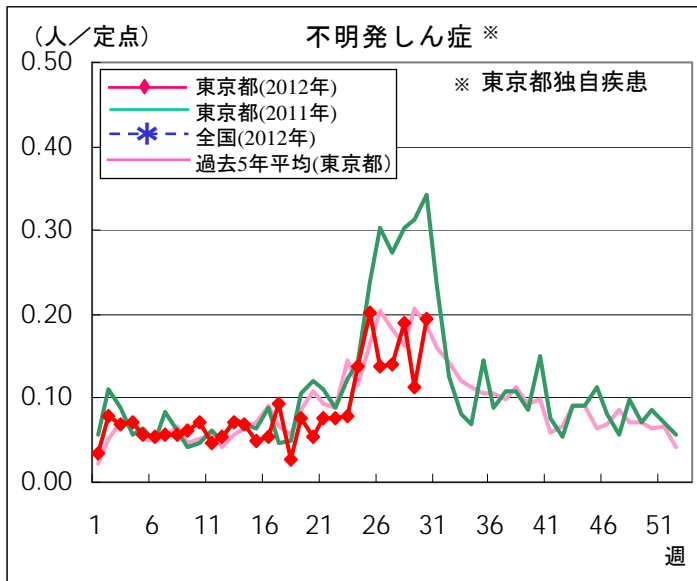
東京都	0.29	0.01	0.20	0.01		0.62
-----	------	------	------	------	--	------

# 定点把握対象疾患 報告数【週別発生状況】 2012年30週現在

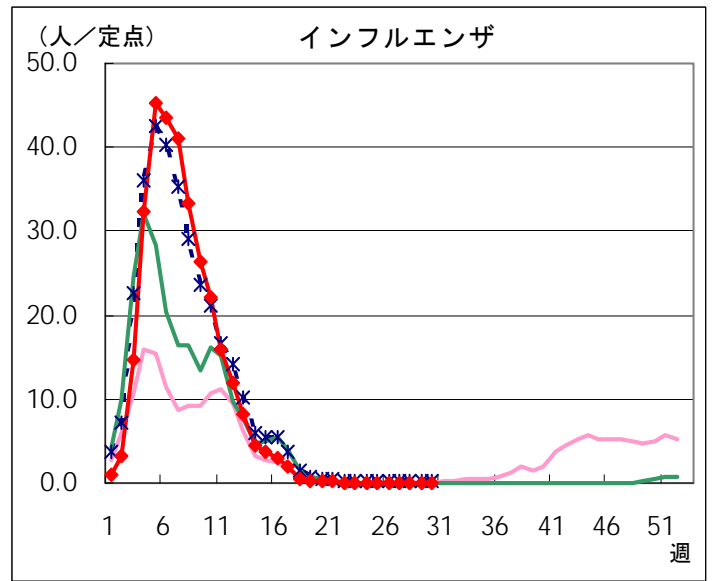
## ◆ 小児科定点



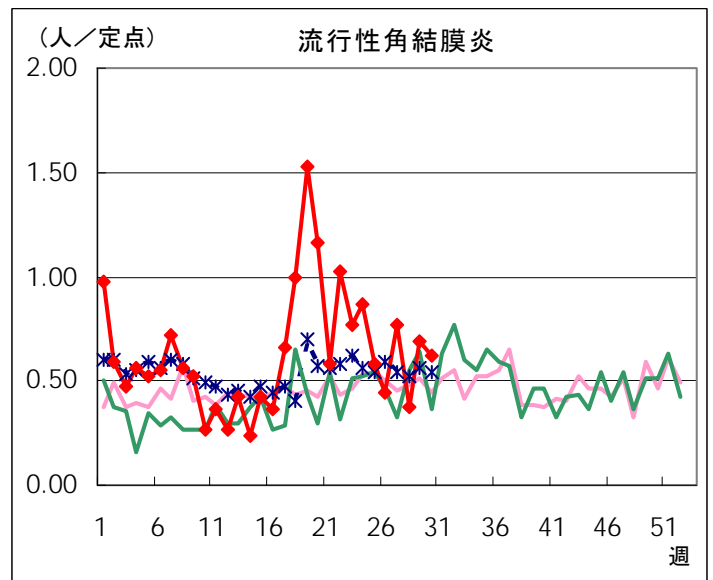
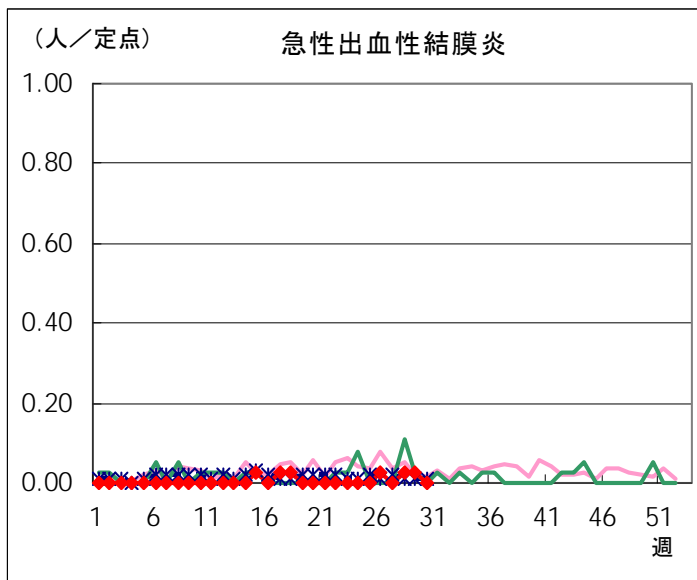




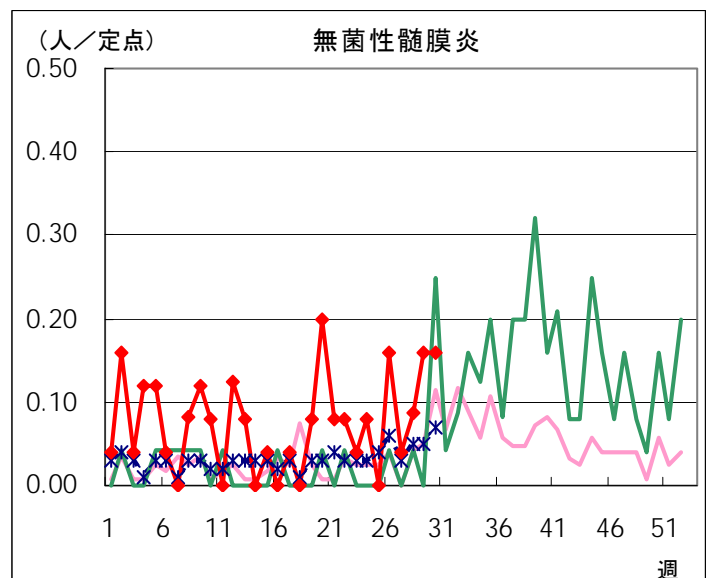
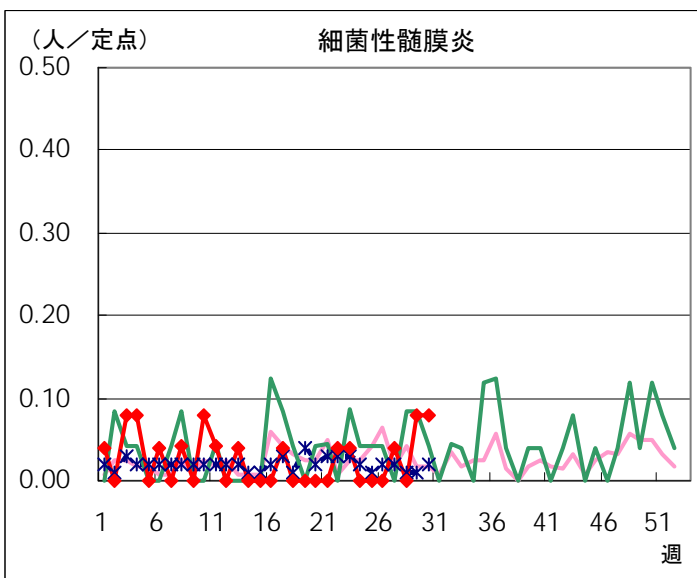
◆ インフルエンザ定点

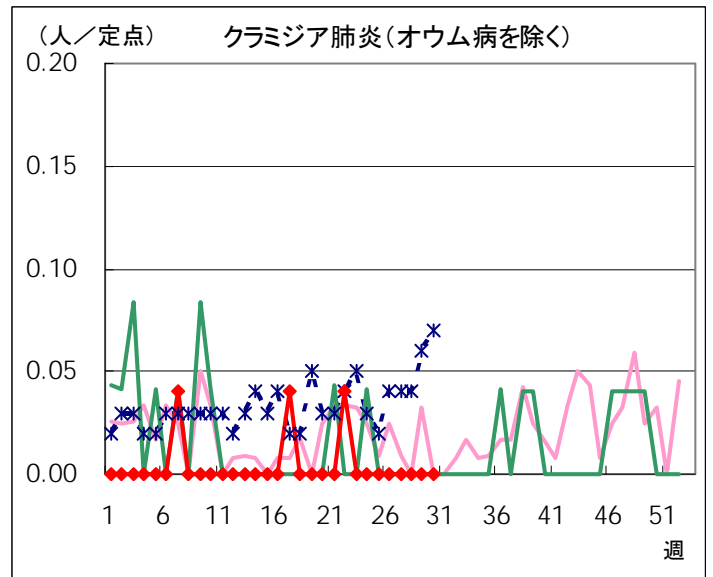
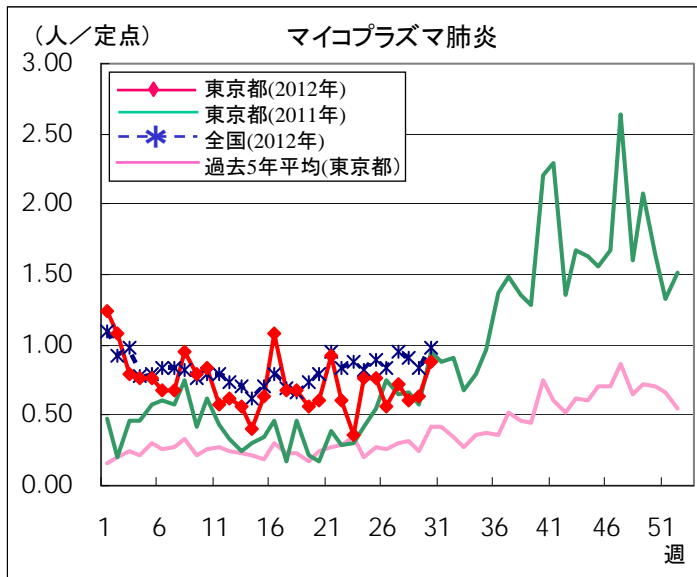


◆ 眼科定点

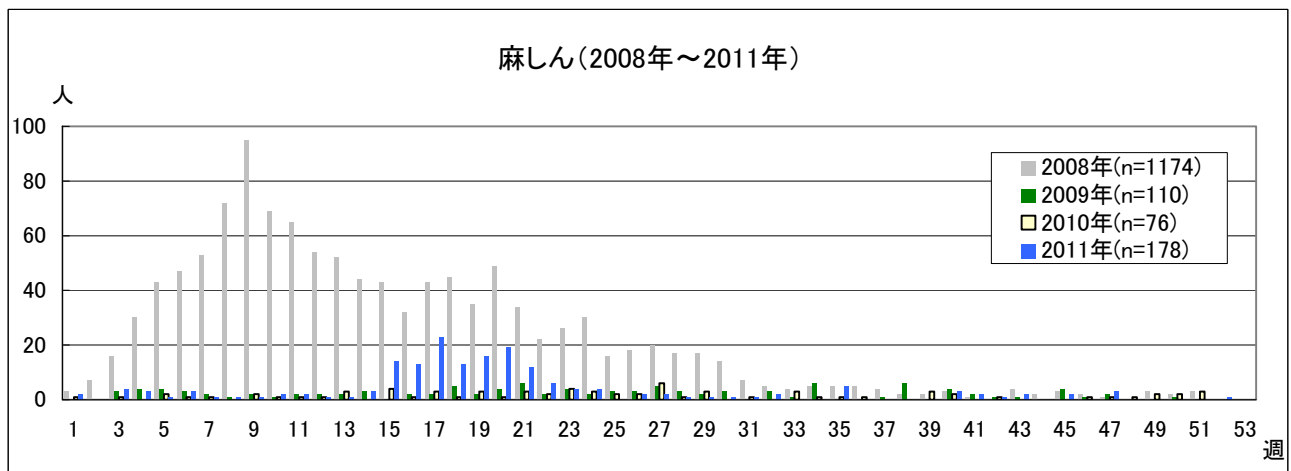
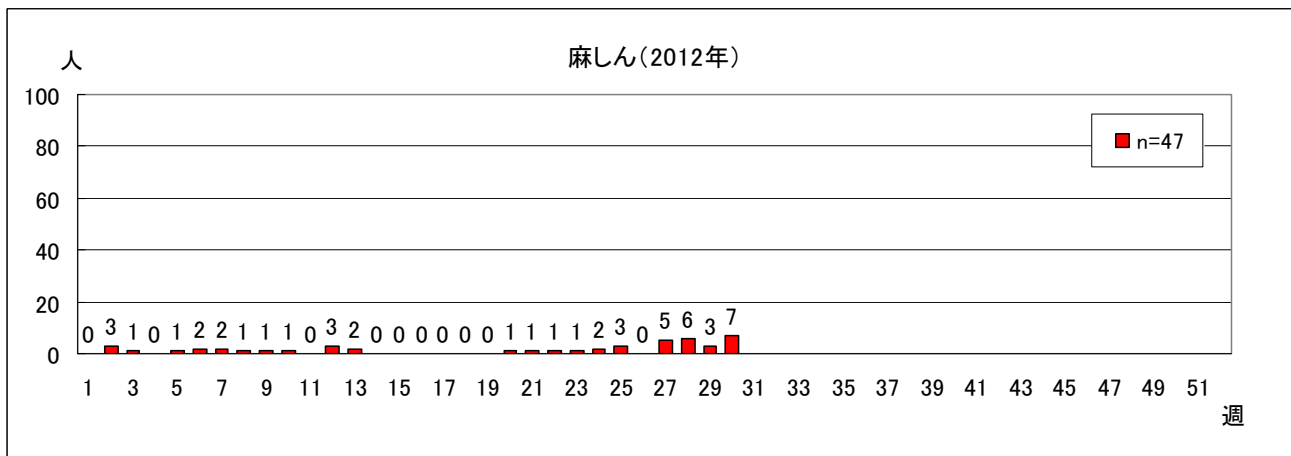


◆ 基幹定点





全数把握対象疾患 報告数【週別保健所受理状況】 2012年30週現在



## 定点(病原体)医療機関から搬入された検体の検査情報

◇病原体検出状況(インフルエンザウイルスを除く)

検体採取日	臨床診断名	患者年齢	検査試料	検出病原体	検査法
7/14	髄膜炎疑い	4M	髄液	エンテロウイルス	遺伝子
7/20	咽頭結膜熱	8M	咽頭拭い液	エンテロウイルス パラインフルエンザウイルス 2型	
7/12	不明発しん症	9M	咽頭拭い液	ヒトヘルペスウイルス 6型	
7/20	ウイルス性発しん症	1	血清	麻しんウイルス	
			咽頭拭い液	麻しんウイルス ヒトヘルペスウイルス 7型	
7/20	細菌性髄膜炎、下気道炎	1	咽頭拭い液	パラインフルエンザウイルス 3型	
7/9	上気道炎	1	咽頭拭い液	パラインフルエンザウイルス 3型	
7/20	脳炎、脳症	1	咽頭拭い液	ヒトヘルペスウイルス 6型	
			糞便		
7/18	不明発しん症	1	咽頭拭い液	ヒトヘルペスウイルス 7型	
7/17	ヘルパンギーナ	1	咽頭拭い液	エンテロウイルス、EBウイルス	
7/18	ヘルパンギーナ	1	咽頭拭い液	エンテロウイルス	
7/18	咽頭結膜熱	1	咽頭拭い液	エンテロウイルス	
7/17	気管支炎	2	咽頭拭い液	エンテロウイルス パラインフルエンザウイルス 3型	
7/18	ヘルパンギーナ	2	咽頭拭い液	エンテロウイルス、EBウイルス	
7/7	気管支炎	3	咽頭拭い液	エンテロウイルス パラインフルエンザウイルス 3型	
7/17	気管支炎	4	咽頭拭い液	エンテロウイルス パラインフルエンザウイルス 3型	
7/13	急性咽頭炎	4	咽頭拭い液	パラインフルエンザウイルス 3型	

検体採取日	臨床診断名	患者年齢	検査試料	検出病原体	検査法
7/12	急性小脳失調症	4	髄液	エンテロウイルス	遺伝子
7/13	急性小脳失調症 ウイルス感染症		糞便		
7/17	不明発しん症	4	咽頭拭い液	ライノウイルス	
7/12	ヘルパンギーナ	4	咽頭拭い液	エンテロウイルス	
7/18	無菌性髄膜炎 流行性耳下腺炎	4	咽頭拭い液	エンテロウイルス ムンプスウイルス、EBウイルス	
			髄液	ムンプスウイルス	
7/18	ヘルパンギーナ	5	咽頭拭い液	エンテロウイルス、EBウイルス	
7/17	不明発しん症	7	咽頭拭い液	エンテロウイルス	
7/12	ヘルパンギーナ	8	咽頭拭い液	エンテロウイルス	
7/12	溶血性貧血	12	咽頭拭い液	EBウイルス	
7/17	不明発しん症	15	咽頭拭い液	単純ヘルペスウイルス 1型	
7/14	ウイルス感染症	記載なし	咽頭拭い液	エンテロウイルス	
7/17	気管支炎	記載なし	咽頭拭い液	エンテロウイルス パラインフルエンザウイルス 3型	
7/21	急性咽頭炎	記載なし	咽頭拭い液	エンテロウイルス	

◇遺伝子検査法によるインフルエンザウイルスの亜型別検出件数 ※「29週」は全て0件でした。

検出件数	AH1pdm09*型	AH1型	AH3型	B型
29週**				
2011-2012年 シーズン累計**	1		219	137

\* 2011年4月1日から新型インフルエンザ(AH1N1pdm)が季節性インフルエンザに移行されたため、表記を AH1pdm09 とします。

\*\* 2011-2012シーズンの開始は第36週(2011年9月5日～)

病原体検査情報【検出病原体別・週別】

検出病原体		2012年							
		22週	23週	24週	25週	26週	27週	28週	29週
ウイルス	アデノウイルス	5	2	1	4	5	2	3	
	ライノウイルス	1	6	2	1	5	2	1	1
	ポリオウイルス				1				
	コクサッキーウイルスA群				3			1	
	コクサッキーウイルスB群								
	エコーウイルス								
	エンテロウイルス71								
	その他のエンテロウイルス	5	1		1	13	4	26	19
	単純ヘルペスウイルス							1	1
	水痘・帯状疱疹ウイルス					1			
	ヘルペスウイルス6/7	3	6	4	2	2	3	14	5
	EBウイルス	1	1	1	1	1			5
	サイトメガロウイルス		1		1	1			
	ムンプスウイルス								2
	麻疹ウイルス							1	2
	風しんウイルス	1							
	パルボウイルスB19				1				
	RSウイルス		2			1	2		
	ノロウイルス						2		
	ロタウイルス	1							
	インフルエンザウイルスAH1								
	インフルエンザウイルスAH3								
	インフルエンザウイルスB			1					
	インフルエンザウイルスAH1pdm09								
	デングウイルス(抗体を含む)								
	その他のウイルス	1	1	2	3	3	3	6	8
細菌	カンピロバクター								
	サルモネラ								
	腸管出血性大腸菌								
	その他の腸管系病原菌								
	溶血性レンサ球菌								
	百日咳								
	マイコプラズマ								
	その他の細菌								
その他の病原体									



病原体検査情報【検出病原体別・臨床診断名別】

2012年22週～2012年29週

臨床診断名 検出病原体		インフル エンザ	上 気 道 炎	下 気 道 炎	感 染 性 胃 腸 炎	無 菌 性 髄 膜 炎	咽 頭 結 膜 熱	A 群 溶 連 菌 咽 頭 炎	流 行 性 角 結 膜 炎	へ ル パ ン ギ ー ナ	手 足 口 病	伝 染 性 紅 斑	不 明 発 し ん 症	流 行 性 耳 下 腺 炎	水 痘	麻 し ん	風 し ん	そ の 他	
搬入検体数		2	42	41	22	28	11		4	18	3		40	4		1	1	70	
ウ イ ル ス	アデノウイルス		7	1	3		3				1		5					2	
	ライノウイルス	1	5	6			3						3					1	
	ポリオウイルス		1																
	コクサッキーウイルスA群		1							1	1							1	
	コクサッキーウイルスB群																		
	エコーウイルス																		
	エンテロウイルス71																		
	その他のエンテロウイルス		11	8		2	5		2	16	1		11	1		1		11	
	単純ヘルペスウイルス					1							1						
	水痘・帯状疱疹しんウイルス																		1
	ヘルペスウイルス6/7		2				1				2		16						18
	EBウイルス					1				4			3	1					1
	サイトメガロウイルス		1							1			1						
	ムンプスウイルス						2												
	麻しんウイルス													3					
	風しんウイルス																		1
	パルボウイルスB19													1					
	RSウイルス		1	4															
	ノロウイルス					2													
	ロタウイルス					1													
インフルエンザウイルスAH1																			
インフルエンザウイルスAH3																			
インフルエンザウイルスB	1																		
インフルエンザウイルスAH1pdm09																			
デングウイルス (抗体を含む)																			
その他のウイルス		8	13	1			3			1			1						
細 菌	カンピロバクター																		
	サルモネラ																		
	腸管出血性大腸菌																		
	その他の腸管系病原菌																		
	溶血性レンサ球菌																		
	百日咳																		
	マイコプラズマ																		
	その他の細菌																		
その他の病原体																			

## ポリオ不活化ワクチン導入

ポリオは、我が国でもかつては毎年1000人以上の患者と100人以上の死亡があり、1960年には5600人を超える大流行があったが、経口ポリオ生ワクチン(OPV)が緊急導入され激減し、1980年の1例を最後に野生型ポリオウイルスによる急性灰白髄炎の発生はゼロが続いている。一方OPVは生ワクチンであり、極めて稀ながらワクチン接種者に麻痺(VAPP)が現われることがある。国内ではOPV投与およそ100万人に1人前後の割合でVAPPが出現すると考えられている。このOPVの欠点をカバーするのが、不活化ポリオワクチン(IPV)であり、我が国でもようやくIPV導入の時期が明らかになった。不活化ワクチンとしての副反応がゼロというわけではないが、麻痺の出現は確実にゼロとなる。

海外メーカーによるIPV単独ワクチン(野生株ポリオワクチンを原材料とする)は9月1日より、国産メーカーによる(ポリオウイルスワクチン Sabin株を原材料とする)IPV+DPTワクチンは、11月に導入の目途となった。いずれも定期接種として使用され、OPVは定期接種ワクチンとしての役割を終える。これに関わる手続き、自治体における実施方法については、現在進行中である。厚労省より自治体担当者への説明会が6月1日にあり、順次現場にその内容が伝わっていくことになるが、そこで配布された実施に関する詳細な資料等は、HP(<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/polio/>)で取り出すことができる。

IPV(およびIPV+DPT)の接種方法は基本的にはDPTと同じ回数(合計4回)と間隔で、皮下接種で行う。これまでにOPVを2回終了した者についてはIPVを追加する必要はなく、OPVを1回受けた者については残りとして初回接種2回プラス追加接種1回をIPVで行うことになる。これまでにIPVを受けた者は、合計4回に満たない残り回数を承認されたIPVで行うことになる。

(文責 川崎市衛生研究所長 岡部信彦)